

談 話 室

第33回日本眼科学会専門医認定試験を終えて

令和3年度の第33回眼科専門医認定試験は、令和3年6月11日(金)に、東京渋谷道玄坂のフォーラム8をはじめとして、札幌、仙台、長野、名古屋、大阪、岡山、福岡の全国8会場で開催しました(表1)。昨年の第32回専門医認定試験は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)蔓延の影響を受け、例年とは半年遅れの12月25日(金)に開催しましたが、今年度は従来の試験時期に戻りました。昨年の試験では全国8会場での分散受験、「口頭試問に準じた筆記試験」の導入、すべての試験を1日で終了(宿泊なし)、をウイルス感染予防の3つの柱として開催しましたが、試験自体の遂行には大きな問題を認めませんでしたので、今年は従来の試験時期に第32回と同様の対策を行って試験に踏み切りました。新型コロナウイルス感染者の増減は予測が難しく、今回はあいにく政府の緊急事態宣言発令中の試験となりました。しかし今回も試験自体の運営には問題なく終了しましたことをまずはご報告申し上げます。今回の試験も前回同様、試験準備と試験後の採点には手間がかかりましたが、作問、試験監督、「口頭試問に準じた筆記試験」の採点にご協力いただいた専門医試験委員会の先生方および事務局の方々、試験スタッフの方々には厚く御礼を申し上げます。

1. 概 要

渋谷会場では、試験前日の6月10日(木)の夕方に最終打ち合わせ会と会場点検を行い、試験当日の6月11日(金)は、第32回と同様に午前10:30から一般問題(120分)、60分の食事休憩ののち13:30から臨床実地

問題(120分)、そして16:00から45分の「口頭試問に準じた筆記試験」を実施し、すべての受験者が17:00までに試験会場を退出できるようにしました。

試験後、6月13日(日)に一般問題と臨床実地問題のkey validation(KV)委員会をWebで開催し、正副試験委員長で全問題について正答率と識別指数を参考にしつつ問題の妥当性を検討しました。また、「口頭試問に準じた筆記試験」については、採点を36名の先生方にお願ひし、6月25日(金)に正副委員長による合否判定会議をWebで開催し、最終的な合否を決定しました。

2. 受 験 者 数

当日の受験予定者数は350名で第32回と比べ増加していましたが、試験当日の欠席者は9名で、最終的に341名(男性184名、女性157名)が受験されました。第32回の最終受験者は300名でしたので、今回は前回よりも受験者が41名増加しました。やはり今回は、コロナ禍の中の初めての専門医認定試験、しかも開催日が年末(12月25日)であったということで受験を控えた方もかなりおられたのではないかと推測されました。

3. 問題数、平均点、合否判定、合格率、ほか

筆記試験は一般問題100題、視覚素材付きの臨床実地問題は50題の合計150題で行いました。KV委員会で検討した結果、識別指数がマイナスとなった問題はありませんでした。磁気共鳴画像法(magnetic res-

表 1 全国8会場

① 札幌	北海道自治労会館
② 仙台	TKP 仙台西口ビジネスセンター
③ 渋谷	渋谷フォーラム8
④ 長野	長野ターミナル会館
⑤ 名古屋	imy 会議室
⑥ 大阪	TKP ガーデンシティ大阪梅田
⑦ 岡山	第一セントラルビル1号館
⑧ 福岡	天神チクモビル

表 2 筆記試験成績

		最高点	最低点	平均点
一般問題	第33回	88.0	24.0	61.6
	第32回	88.0	0.0	65.7
	第31回	86.0	30.0	63.4
臨床実地問題	第33回	93.9	32.7	65.7
	第32回	93.9	0.0	70.8
	第31回	94.0	36.0	68.2
総合	第33回	175.8	62.8	127.3
	第32回	179.8	0.0	136.5
	第31回	177.0	71.0	131.6

第32回における最低点0点は受験者1名が氏名と受験番号のみ記入して白紙で提出したため。

表 3 男女別合格者数・合格率

	男性	女性	計
受験者数	184 名	157 名	341 名
合格者数	128 名	100 名	228 名
合格率	69.6%	63.7%	66.9%
初回受験者数	152 名	130 名	282 名
合格者数	120 名	94 名	214 名
合格率	78.9%	72.3%	75.9%
再受験者数	32 名	27 名	59 名
合格者数	8 名	6 名	14 名
合格率	25.0%	22.2%	23.7%

onance imaging : MRI) 診断画像の撮影モードの表示に誤りが発見された臨床実地問題 1 題を不採用としました。一般問題と臨床実地問題をそれぞれ 100 点満点として換算し、両者の合計を 200 点満点として採点しました。採点結果と過去 2 年間の結果を表 2 に示します。結果として、筆記試験の総点数では、一般問題も臨床実地問題も昨年と比べて平均点は 4~5 点下回っていました。「口頭試問に準じた筆記試験」では、2 問を課題としました。従来の口頭試問のように、判定については一人の受験者に対して 2 名の試験委員による判定を行いました。判定結果と解答用紙については、6 月 25 日(金)の判定委員会で、正副委員長が「口頭試問に準じた筆記試験」の不合格者の解答用紙に目を通したうえで、客観的評価が行われているかどうかを確認し、最終的な合否判定としました。

合格基準は例年どおりで、筆記試験が 200 点満点の 120 点以上を獲得し、「口頭試問に準じた筆記試験」も合格することとしました。今回の合格者は 228 名で、合格率は 66.9% であり昨年より約 12% 低いという結果でした。初回受験者の合格率は 75.9%、再受験者の合格率は 23.7% でした。不合格者の内訳は、筆記試験不合格者は 113 名で「口頭試問に準じた筆記試験」による不合格者はありませんでした。表 3 に男女別の合格率を示しますが、今回は男性の合格率が良好でした。表 4 に最近 3 年間の合格率の比較を示します。

4. 筆記試験問題

筆記試験問題の作成は、毎年、全国の指導的立場におられる約 80 名の出題委員に依頼し、一般問題 2 題以上、臨床実地問題 3 題以上の作成をお願いしています。今回もご多忙のなか問題を作成し出題して下さった先生方には深く感謝申し上げます。

今回の試験問題作成につきましても、例年のように 6 回にわたって試験委員会を開催し、候補問題を抽出して討議を重ね、ブラッシュアップ作業を行って良問作成に努めました。試験委員は出題基準に基づいた各専

表 4 最近 3 年間の初回受験・再受験別合格率

回	年	初回受験者	再受験者	総合合格率
33	2021	75.9%	23.7%	66.9%
32	2020	88.1%	50.7%	79.0%
31	2019	83.1%	33.3%	74.1%

門分野の委員で構成されていますが、各専門分野の指導的立場に立つ先生方が集合して実施する 2 回の会議では、質問の妥当性、解答の確認、文言の訂正、出題基準との整合性、現実の臨床現場での普及度などを吟味しながら、一問一問を討議しました。ただ、作問をしていただいても、数年以内にほぼ同じ内容の問題が出題されていたり、他の問題と類似であったり、内容が「眼科専門医認定試験出題基準」や「眼科研修医ガイドライン」に含まれていなかったり、答えの選択肢の重みが異なったりして採用されない場合もあります。今回の試験問題の正答率をみますと、正答率が高い問題は、どうしても反復して出題される類似問題である傾向は否めません。他方、正答率が低い問題は、例年、解剖学的な数字を問う問題などが多い一方、眼科医としての経験を積みめば自ずと正解できる一般常識的な問題であっても、正答率が意外に低い場合もあります。

5. 口頭試問に準じた筆記試験

コロナ禍前の例年の口頭試問は眼科専門医としての経験、知識、態度に関して、筆記試験を補完することを目的に実施してきましたが、今回の専門医認定試験では、第 32 回と同じく、COVID-19 に対する安全面への対策として、対面方式の面接は行えませんでした。このため、「口頭試問に準じた筆記試験」とし、何とか口頭試問に近い質問となるよう工夫を行いました。問題は例年と同様に試験委員の先生方に作成いただき、その中から 2 問を選択し、受験者の知識だけでなく現在までの経験や眼科医としての態度を確認できるように修正しました。今回の試験では、2 問を採択して 45 分間の試問(解答は筆記形式)に適応するように修正して質問を設け、2 問の合計点を合否の判定材料としました。問題 1 は、縮視力検査について検査器具の名称、検査の目的や手順などを問う問題で、問題 2 は超高齢者の成熟白内障の所見、手術方法や術者の注意点、家族へのリスク説明などを問う問題でした。問題 1 は受験者によって知識のレベルに差異がみられ、内容が定まらない答案がやや多くみられる一方、問題 2 に関しては、眼科医として比較的良好に遭遇するケースだけに、受験者の方々自身の経験から、概してよく記載できた答案が多くみられました。今後、本形

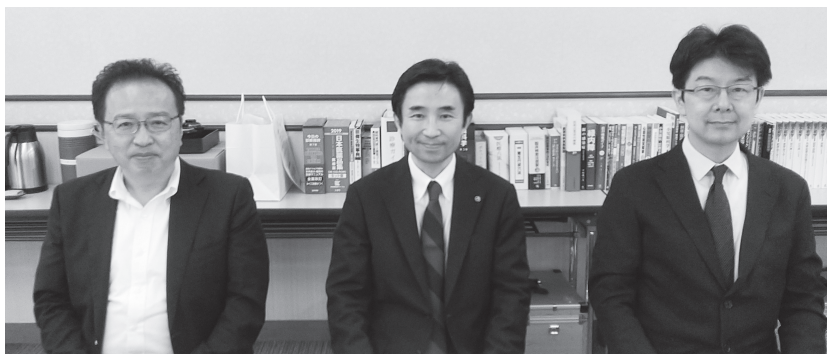


写真 東京渋谷会場の試験本部にて。
左から小幡博人次期副委員長，高橋，近藤峰生現副委員長。

式の口頭試問が継続されるかどうかは不明ですし，口頭試問に完全にとって代わるものとはいえませんが，筆記試験をある程度補完する役割を果たしているのではと思われました。

6. おわりに

筆記試験の正答率をみますと，受験者は最近の専門医認定試験の出題傾向を意識して試験に臨んでおられ，本試験が眼科専門医資格試験の質を保障するために重要であることを再認識しました。また，「口頭試問に準じた筆記試験」の今後の継続に関しては，コロ

ナ禍の状況に応じて考えるべきと思われました。本試験の役割として，良問をもって正当な試験を行い，社会的に重要な専門医制度の保持につなげることが重要であることに変わりはないと考えます。多くの良問を作成いただき，また各地開催の試験監督，採点など，本試験にご協力いただいた諸先生方に重ねて厚く御礼を申し上げます。

以上，第33回眼科専門医認定試験についてご報告させていただきました。

高橋 寛二
日本眼科学会専門医制度委員会
試験委員会委員長